

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	在宅医療、看取りを促進する因子について
演者名	寺澤佳洋 1)、大杉泰弘 1)、山本俊輔 1)、平嶋竜太郎 2)、浅井幹一 1)、野場万司 3)
所属	1) 藤田保健衛生大学、豊田市・藤田保健衛生大学連携地域医療学寄附講座 2) 同 救急総合内科 3) 豊田加茂医師会

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5

目的

豊田市での在宅看取り数実績のある診療所・病院は少なく、その数も横ばいである。在宅医療・看取りの現状や促進のために有用な因子を把握することを目的とした。

方法

平成 26 年 1 月の 1 ヶ月間、豊田加茂医師会員 194 名の意識実施調査(アンケート調査)を無記名にて行い、有効回答数 111(回答率 57%)であった。単純集計、クロス集計、 χ^2 検定、ロジスティック重回帰分析にて在宅医療・看取りに関わっている因子を分析した。

結果

在宅医療について、「行っている」が「行っていない」に比べクロス集計にて有意に頻度が高かった項目は、「65 歳以上の通院患者が 50%以上」、「訪問看護により大変助かっている」、「1 年間に地域包括支援センターなどからの相談があった」、「専門科目が内科」であった。看取りについては、「行っている」が「行っていない」に比べて有意に高かったのは、「開設されてから 10 年以上」、「訪問看護により大変助かっている」、「在宅医療などの講習会に参加する」、「65 歳以上の通院患者が 50%以上」であった。以上の項目に関してロジスティック重回帰分析を行い、在宅医療を行っている有意な因子としては「専門科目が内科」「訪問看護により大変助かっている」の 2 つが挙げられ、看取りを行っていることについての有意に高かった因子は、「開設されてから 10 年以上」「訪問看護により大変助かっている」であり、「在宅医療などの講習会に参加する」が高い傾向にあった。

考察

本研究では、在宅医療については専門科目が内科であること、看取りについては開設されてから 10 年以上の診療所で多いことが示されたが、両者に共通する因子として訪問看護の利用が在宅医療・看取りを行うことに関わっていると推定された。また、教育研修を受けることも在宅医療推進に役立つと思われた。